

第6次江南市総合計画市民会議 議事要旨 (第3回 第1分科会 (まちづくり分野・しごとづくり分野))

日 時 平成28年12月13日(火) 9:30~11:40

会 場 江南市役所 防災セミナー室(南)

出席者 出席委員8名(2名欠席)

■委員

《会長》	加藤 幸治	江南市都市計画審議会委員
《副会長》	宮川 秀男	公募市民
	中村 建岳	公募市民
(欠席)	糸山 光正	公募市民
	川田 圭一	江南市歴史ガイドの会会長
(欠席)	前田 哲郎	布袋地区鉄道高架・街づくり協議会幹事
	野田 憲一	江南市総合計画策定部会(まちづくり分野) 部会長
	石川 晶崇	江南市総合計画策定部会(まちづくり分野) 副部会長
	大岩 直文	江南市総合計画策定部会(しごとづくり分野) 部会長
	石坂 育己	江南市総合計画策定部会(しごとづくり分野) 副部会長

■傍聴者

なし

◆議題

議題

(1) 基本計画(分野別計画)について

<配付資料>

資料1 第2回江南市総合計画市民会議(分科会)議事要旨

資料2 江南市総合計画市民会議(分科会)での柱の検討予定について

◆会議結果

1 開会

事務局より挨拶。

2 市民会議

2.1 報告

(1) 前回議事録の確認について

(会 長) 報告について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ~ 資料1について事務局より説明 ~

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

~ 特に意見なし ~

(会 長) 特にご意見がないようですので、次に移ります。

2. 2 議題

(1) 基本計画（分野別計画）について

(会 長) 議題(1)の「基本計画（分野別計画）について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ～ 資料2について事務局より説明 ～

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委 員) 市民満足度調査の数値について、「満足している」「一応満足している」の2区分の合計を満足度とし成果目標の指標に用いるという認識でよいか。それなら、よりポジティブに感じられる「満足している」と少しネガティブな「一応満足している」の内訳が違ってても、合計値が同じになることもあると思うが、何か工夫できないか。

(事務局) 市の計画では、5段階評価の真ん中を基準として、それより上である「満足している」「一応満足している」を市民が満足しているものとして捉えていますので、この考え方で整理させていただきたいと思います。なお、内訳の数値は市民満足度調査報告書に示してまいります。

(会 長) ある基準から見て、どれだけの結果なのかを統計学で検証していると思うので、少し一般的な捉え方とは異なるかもしれません。

①分野Ⅰ－柱9 上水道について

(水道課) ～ 分野Ⅰ－柱9上水道について水道課長より説明 ～

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委 員) 個別目標②の「有収率」の基準値は93.5%だが、残りの6.5%は何か。

(水道課) 水道管の布設や布設替え時に行う管洗浄、火事の際の使用などが該当します。

(委 員) 行政の取り組みに適正な会計処理とあるが、そのための課題は何か。

(水道課) 県が策定した第3次あいち地震対策アクションプランでは、大規模災害があつた際でも支障なく水が供給できるよう、平成35年度までに災害拠点病院に至る管路の耐震化を計画目標、それ以降については、県企業庁が平成42年度までに重要給水施設の耐震化を中期目標として掲げています。市では県の方針を踏まえ、地域防災計画で定める災害拠点病院（江南厚生病院）、災害復旧活動拠点（市役所、消防本部、江南警察署、市民文化会館）、応急給水施設（指定避難所、指定緊急避難場所）までの配水本管及び水源から配水場までの導水管を平成43年度までに耐震化更新する計画を立てています。しかし、これを実施していくためには年約3億円が現状の事業費より増加することになります。留保資金、いわゆる貯金ですが、これで補填したり、企業債の借入れ、水道料金の値上げを実施したうえで、これらの事業を進めていかなければなりません。また、企業債の借入れなしでの試算では水道料金を約26%値上げしなければならぬ結果となっています。このことから「市民協働の推進に向けて」に記載しましたが、市民、団体、市議会議員等で構成する経営審議会でも議論し、住民の方々と健全な経営について考えていく必要があります。

(会 長) 個別目標②の「管路耐震適合率」について、どのエリアから耐震化に取り組むのか。

(水道課) 平成43年度までに耐震化更新する基幹管路と、平成28年度から10年間の第3次配水管改良計画に基づき、簡易水道から引き継いだ老朽管等の更新を併せて行う予定です。老朽管等については毎年度、前年度までの状況を踏まえ、漏水多発箇所とその周辺を効率的に大きいロットで工事発注しコストの削減を図ります。また、基幹管路については下般若配水場から災害拠点病院、災害復旧活動拠点までを優先的に行い、その後、応急給水施設となっている小中学校等までの管路更新を順次行っていく予定です。

(委 員) 水道料金は他地域と比べてどの程度なのか。

(水道課) 平成27年度決算ベースでは、県内で安いほうから数えて4番目の料金です。地下水の有効利用により自己水の比率が高く、県営水道からの受水購入が少ないため安価となっています。

②分野Ⅰ－柱8 住環境について

(建築課) ～ 分野Ⅰ－柱8住環境について建築課長より説明 ～

(会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委員) 現状と課題で、「江南市は特定行政庁（限定特定行政庁）」とあるが、江南市は特定行政庁ではないと思うので、「江南市は限定特定行政庁」としたほうが良いのではないかと。

(建築課) 記載内容の変更について検討します。

(委員) 市営住宅はどこにあるか教えていただきたい。

(建築課) 東野住宅、山王住宅、力長住宅、南野住宅の4か所あります。

(委員) 市営住宅は家賃が安いこともあり、外国人の入居が増えていくのではないかと。また、資料に「文化・言語・国籍を問わず利用できるユニバーサルデザイン化を進める」との記載がある。外国人の入居で、家賃滞納やごみ出しのトラブルも懸念される。

(建築課) 外国人については、入居の応募自体は増えてきていますが、入居については平等に抽選で決めています。トラブルについても、管理人から特に報告はありません。

(委員) 個別目標に「耐震診断の診断実施済棟数」とあるが、診断だけ増えても改修が増えないとあまり意味がないと思うので、耐震化率なども目標値に入れてはどうか。

(建築課) 耐震化率の国の目標は住宅で95%となっており、市でも平成27年度に改訂した耐震改修促進計画において平成32年度までに目標が達成できるよう計画を立てています。計画の中には木造、非木造があり、重点的な施策として民間の木造住宅の耐震化率を上げようとしています。耐震化率を上げる市の施策として耐震改修補助並びに段階的耐震改修費補助及び耐震シェルター整備費補助といった減災化があるほか、新築が増えるとおのずと耐震化率が上昇していく状況も考えられます。改修等は、補助により進めていくことも可能ですが、実際にやるかやらないかは市民の選択です。このため、耐震化率の数字は伸びない可能性もあり、計画に記載する施策として適切かどうか検討させていただきます。

(委員) 現在の耐震化率はどのくらいなのか。

(建築課) 木造と非木造を合わせて74.8%です。

(委員) 診断実施済棟数の基準値や目標値は累積なのか。累積でもまだまだ数が少ないと思うが。

(建築課) 累積です。無料の耐震診断ですが、調査に時間がかかったり、部屋まで入らないといけなかったりするので、実施がなかなか難しいのが現状です。診断数が少ないのは、診断する側も追いつかないといった理由もあり、数を上げるには、それらが課題となります。

(委員) 診断しなければならぬ母数は増えることがあるのか。

(建築課) 昭和56年5月以前に建築された建物は増加しませんので、母数が増えることはありません。

(委員) 江南市は新築が多いように思う。新築により、耐震化率自体が上昇するといった話があったが、その動向はどうするのか。

(建築課) どれだけ新築があるか、国の統計資料を参考にしています。

(委員) 名古屋に近いので、新築率が高く土地売買も盛んだと思われるので、国の状況とは少し異なるのではないかと。

(建築課) 当然、新築戸数については、税務課で行っている家屋調査のデータも使用しています。毎年度の調査ではありませんが、その結果を利用し、耐震化率を算出しています。

(会長) 耐震を進めることは、なかなか難しいと思う。耐震診断自体やりたいという人は少なく、補助も工事費の半額程度しかないため実際に改修までやりたい人はもっと少ないと思う。投資したお金がもったいないと感じている人もいる。高齢者も多いため、自分に何かあった時に貯めておきたい人もいる。耐震を進めるにはリフォーム補助と耐震改修補助とを一緒にやる方法もある。江南市にリフォーム補助はあるのか。

(建築課) 他課ではありますが以前は実施していました。現在は福祉部門でバリアフリーに関する住宅改修補助は行っています。

- (会 長) たとえ少ない補助額でもリフォーム補助を耐震補助に組み込めば耐震化率の向上には効果的
だと思う。
- (委 員) 空家対策について教えていただきたい。
- (建築課) 平成 28 年度に実態調査し、平成 29 年度に空家等対策計画を策定予定です。空家の利活用や
危険な建物については空家等対策の推進に関する特別措置法による指導などを盛り込んだ
計画とします。最終的には行政代執行の記載も含めた計画になると思います。
- (会 長) 可見市では空家対策のための審議会を設置し、行政代執行についても条例化している。指導
等を経て最終的には行政代執行となるが、実施は難しいと思う。所有者は執行額の返済がで
きず、負債を抱えてしまうといった懸念もあり、可見市ではまだ行政代執行は行っていない。
- (建築課) 江南市も審議会等を設置して空家対策に取り組んでいきたいので、参考にしたいと思います。

③分野Ⅲ－柱2 農業振興について

- (農政課) ～ 分野Ⅲ－柱2 農業振興について農政課長より説明 ～
- (会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。
- (委 員) 個別目標①の「認定農業者数」は基準値が 28 人と少ないように感じるが、実際に農業を行
っている人数とは違うのか。
- (農政課) 農業経営基盤強化促進法に基づき、農業経営改善計画を作成し、市から当該改善計画の認定
を受けた者の数です。いわゆる専業農家であり、これは個人や法人の代表者数なので、正確
には件数です。兼業農家等は含まれません。
- (委 員) 認定農業者数だけでは、実際に農業に従事している数を測れないと思う。市内の専業、兼業
農家数はいくらか。
- (農政課) 5 年に 1 回実施の農林業センサスの結果、平成 27 年では専業農家 46 戸、兼業農家 97 戸、
自給的農家 874 戸の計 1,017 戸となっています。専業農家の中には市への届出をしていない
場合も考えられるため、認定農業者数と一致しません。
- (委 員) 同じく個別目標①について、「担い手への農地の利用集積」と「市民菜園の面積」は、単位
が ha と m²とでバラバラである。単位は統一したほうがよいのではないか。
- (農政課) m²でのデータ管理も行っているため、m²に統一することは可能です。
- (委 員) 過去 5 年の認定農業者数の棒グラフがあるが、各年度のグラフの上に人数の記載がない。他
の柱のグラフは数字が記載されているので、同じようにしてほしい。
- (農政課) グラフの上に数字を入れるようにします。
- (委 員) 農業は後継者不足が問題だと思う。後継者不足を解決するために、効果的な対策はないか。
- (農政課) 有機農業への就農を前提とした施設「なのはな畑」での研修の受講や JA での「農業塾」の
受講を PR したり、県の普及所から農業従事者を紹介してもらったりといった方法がありま
す。
- (委 員) まとまった農地の多い田舎だと大々的に新規就農者を募集していることもある。
- (農政課) 就農資金の援助や住居のあっせんまで行っている自治体もあるようですが、江南市は都市農
業になるため大規模農業は向かず、田舎のようにどんどん来てほしいとは言えません。
- (委 員) 国は大規模農業を推進していると思うが、江南市は農地が比較的分散しており、まとまった
土地が少ないため大規模農業は難しいと思う。
- (農政課) 農地中間管理機構で農地が貸し借りされていますが、江南市は一区画の土地が小さく、まと
まった農地が少ないため、貸し手はいますが借り手が少ない状況です。大規模農業に向かな
いため、国の政策には合いません。
- (委 員) 国の政策と合わないのなら、発想を変えて小規模農業でも新規就農者を増やすことができる
政策を模索したほうがよいのではないか。農業の在り方を考えるべきだと思う。
- (農政課) 新規就農者を募ることは難しいため、まずは、地産地消の一環として市民菜園で農業に親し

んでもらい、そこから更に本格的な農業に進んでもらう。このように段階的にやる必要があると思います。また、野菜の直売所について、商工会議所など各所から要望があります。市民自らが作った野菜が販売できれば、市民の直接的な利益となるため、新規就農者の増加が見込める可能性もあります。

- (委員) 全体目標に「地域の特色ある農産物が育てられていると感じる市民の割合」とあるが、ブランド化している農産物はあるのか。
- (農政課) 現状ありませんが、国から指定産地に認定されている野菜としてねぎ、白菜、大根があり、中でも越津ねぎをブランド化したい考えは持っています。
- (委員) 農産物を売るだけの直売所では収益が見込めないが、155号沿いに道の駅を作り、そこで販売してはどうか。
- (農政課) 先ほどのとおり、直売所については検討しています。確かに直売所だけでは売上げが少ないと思うので、野菜だけではなく、肉や魚の販売や農家レストランなどと一体化してもよいかもしれません。ただし、まだ構想を練っている段階であり、土地購入やアクセス道路の問題などを解決していかなければなりません。
- (委員) 新規就農者を増加させるためには、江南市に特色のある政策が必要だと思う。
- (会長) 道の駅について、高架の下を有効利用している自治体もあり、騒音はするがよい場所かもしれない。また、ある自治体では簡単に農地転用ができるため、農地自体が減ってしまった。江南市は農地を守るために農地転用を厳しくしているので、非常によいことだと思う。
- (委員) 道の駅の構想について、計画中に加えられないか。
- (農政課) 検討します。
- (会長) 農業だけでなく、魅力あるまちづくりには市の積極的なPRが必要ではないか。まだまだPRが十分とはいえない。
- (委員) 地域情報センターで江南市の特産物などの展示がされているが、ただ展示するだけではPR不足だと思う。
- (農政課) 例えば道の駅を観光拠点とし、市のPRをするといったことも考えられます。

3 その他

次回以降会議日程について

- (事務局) 次回第4回分科会会議は、12月21日(水)午後1時30分から、分野別計画の分野Ⅰ-柱6 下水道、分野Ⅰ-柱4 道路、分野Ⅰ-柱7 治水、分野Ⅲ-柱1 商工観光・雇用就労についてご検討いただく予定です。
- 第5回以降について、第5回は1月18日(水)の午後3時から、第6回は1月27日(金)の午前9時30分から、第7回は2月7日(火)の午後3時からの開催を予定しています。検討する柱は未定のため、詳細は後日連絡します。

4 閉会

- (事務局) 長時間に渡りご検討いただきまして、ありがとうございました。第3回市民会議(分科会)を終了します。本日はありがとうございました。

以上